

# 幼児絵の研究

(II)



水原 泰介

幼児絵はいろいろの観点からこれを研究することができるが、今回の研究は、幼児の興味を中心として分析することにした。

幼児の自由画の内容が幼児の興味を反映するものであることは多くの研究者によって認められている。したがってわれわれは幼児の自由画の内容を分析することによって、幼児の興味の発達傾向、興味の性差、地域差などを調べることができる。

今回の研究は、幼児絵の研究に役だてるために、全国の幼稚園からお茶の水女子大学付属幼稚園に送られて来た自由画を材料として分析したものである。これらの自由画の中、秋期に描かれたものについての研究は、「幼児の教育」昭和三十一年十月号に発表したもので、今回はそれに続く冬期に描かれたもの約九千枚についての分析結果

第1表 分類項目

1	家屋 (家、門、ものほし、窓)
2	天体、天候、気象 (太陽、雲、虹、月、星、雪)
3	植物 (花、木、つくし、草)
4	乗物 (飛行機、汽車、自動車、船、電車、ケーブルカー)
5	人物 (女の子、人、顔、人形)
6	装飾家具 (花瓶、カーテン、鉢、クリスマスツリー、 門松)
7	動物 (金魚、魚、虫、鳥、動物、蝶、ひよこ)
8	地形 (山、海、池)
9	土木建築 (道、線路、橋、トンネル、ビルディング)
10	旗 (国旗、その他の旗全部)
11	架空の物 (おぼけ、神様、サンタクロース、ロボット)
12	衣服装身具 (靴、帽子、眼鏡、リボン、ふとん)
13	遊具 (ブランコ、スベリ台、飛び込み台、鉄棒)
14	玩具 (たこ、鯉のぼり、風船、羽子板、なわ、ボール)
15	家の設備品 (ピアノ、机、たんす、テレビ、時計)
16	火事、煙、爆弾、花火、光線、しゃぼん玉)
17	食物 (果物、野菜、パン、だんご)
18	その他

を述べることにする。分析の方法は、各一枚の絵に、第1表の分類項目の中どれとどれが描かれているかを調べるのである。なお、一枚の絵の中に、同一項目のものが二個以上含まれている場合も一個だけの場合も同じ扱いをした。例えば、人物が一人だけ描かれていても、数人の人物が描かれていても、同様に「人物を含む」として扱う。(頻度一として扱う)。

## A 年令別

それぞれの項目が各年令の児童の中の何パーセントの者によって

描かれていのかを調べてみると第2表のようになる。これによると、大多数の項目は年令が進むにつれてパーセントが増加している。

年令別による差異の特に顕著な項目は次のものである。

- (男児) 地形、家屋、天体、気象、人間、動物、植物
- (女児) 植物、家の設備品、衣服、装身具、天体、気象、家屋、人間

また、四才児では男児と女児の間に、果物、人間、植物以外の項目についてはあまり著しい差異が認められないが、五、六才児ではかなり多くの項目について性差がはっきりしてくる。

**B 性差**

第2表に見られるように男児と女児との差の大きい項目は次のものである。

- (1) 男児の方が多い項目  
乗物、火事、煙、爆弾、旗
  - (2) 女児の方が多い項目  
植物、衣服・装身具、家屋、人物、家の設備品、天体・気象
- 紙面の都合上、地域別の比較は第3表の六

表 2 年 令 別

項目	男 子		女 子	
	%		%	
家屋	34	██████████	53	██████████
天象	28	██████████	45	██████████
気象	15	██████████	19	██████████
植物	20	██████████	43	██████████
乗物	17	██████████	35	██████████
旗	11	██████████	18	██████████
乗物	55	██████████	5	██████████
人物	51	██████████	7	██████████
人間	50	██████████	10	██████████
家屋	53	██████████	83	██████████
衣服	31	██████████	71	██████████
装身具	29	██████████	63	██████████
家屋	3	██████████	7	██████████
乗物	1	██████████	4	██████████
旗	0.4	██████████	1	██████████
乗物	12	██████████	10	██████████
旗	5	██████████	6	██████████
乗物	5	██████████	7	██████████
地形	20	██████████	12	██████████
地形	10	██████████	6	██████████
土建	4	██████████	6	██████████
水築	10	██████████	5	██████████
旗	6	██████████	2	██████████
旗	7	██████████	0.4	██████████
旗	10	██████████	1	██████████
旗	8	██████████	3	██████████
旗	8	██████████	3	██████████
旗	6	██████████	5	██████████
旗	3	██████████	2	██████████
旗	2	██████████	0.4	██████████
旗	9	██████████	36	██████████
旗	3	██████████	24	██████████
旗	2	██████████	7	██████████
旗	3	██████████	4	██████████
旗	2	██████████	3	██████████
旗	1	██████████	1	██████████
旗	6	██████████	10	██████████
旗	5	██████████	4	██████████
旗	1	██████████	2	██████████
旗	15	██████████	5	██████████
旗	11	██████████	2	██████████
旗	7	██████████	5	██████████
旗	4	██████████	2	██████████
旗	3	██████████	3	██████████
旗	4	██████████	2	██████████
旗	3	██████████	17	██████████
旗	4	██████████	6	██████████
旗	3	██████████	1	██████████
旗	2	██████████	3	██████████
旗	6	██████████	3	██████████
旗	3	██████████	9	██████████
旗	8	██████████	6	██████████
旗	8	██████████	1	██████████
旗	8	██████████	4	██████████

(註) 年令別 一六才 一五才 一四才

才児についての結果のみを載せることにする。第3表に見られるように、男児と女児との間のひらきは大都市ほど大きくなっている。この事実を更に明瞭にするために、主要な項目について性差を表わす点数を与えて、それに基づいて各児童の性度を算出してみた。



※4表 性度点が3.0以下の児童のパーセント

地区	年齢	男子		女子		男女の差
		パーセント	人数	パーセント	人数	
六才児	大田市	17	17	87	70	17
	中田市	34	34	73	39	34
	郡部	45	45	83	38	45

都市では田舎に比べて、児童の生活環境の中に、おとなから、いわば「人為的」に与えられるものが多い。そして「人為的」に与えられる場合には、男児には男児向きのもの（例えば、玩具のピストル、乗物など）女児には女児向きのもの（例えば、人形、装飾品、ままごと道具など）というように男女によって区別して与えられる場合が多い。そして、これらが彼らの遊び道具の主要部分を占める。

※5表 一枚当たり平均描写項目数

年齢	パーセント	男子		女子	
		平均項目数	人数	平均項目数	人数
六才	3.06	3.06	3.06	3.57	3.57
五才	2.13	2.13	2.13	2.71	2.71
四才	1.78	1.78	1.78	1.74	1.74

都会では田舎に比べて、児童に与える玩具類のみならずことば使い、絵画その他の製作物に対しての親の指導が多い。男児には男の子に向けた、女児には女の子に向けた話をし、やり、絵を画いてやる。つまり、都会では田舎に比べて、男の子を男

らしく、女の子を女らしく、形づくるように、おとなから手が加えられる傾向が強いのである。そして児童の興味がこれによって大きな影響を受けるから、男児と女児とは興味が著しく異ってくる。田舎でも勿論このような現象が見られるが、都会に比べればそれほど顕著でないように思われる。彼らは都会の児童に比べると、家の内外にある、いろいろな事物を自分で選んで遊びの対象とすることが多い。おとなの手によって「人為的」に興味を型どられるのではなくて、子ども自身でいわば「自然に」興味を作り出してゆく傾向が強いのである。この場合の方が男女を区別しておとなから「人為的に」手を加えられる場合よりも、男女の差が少なくなるであろう。

### C 一枚あたりの描写項目数

一枚あたりいくつの項目が描かれているかを調べてみると第5表のようになる。一枚に、例えば家屋、人間、植物が描かれていれば三項目含まれていることになる。この結果をみると、(1)、年齢別では、年齢が進むにつれて一枚あたりの描写項目数が増大している。なお、研究対象となった児童は、中都市の者が最も数が多いので、中都市のみについて、一枚に、一、二項目しか描いていない者のパーセントを出してみると、第6表のようになる。すなわち、六才児では、一、二項目しか描いていない者が16%であるのに四才児では79%もいる。(2)、性別では、女子の方が男子よりも項目数が多い。

※6表一枚当り二項目以下の児童のパーセント

地区	年令	男女合計		男子		女子	
		%		%		%	
中都市	6才	16		19		13	
	5才	45		45		41	
	4才	79		87		70	

※7表一枚当り三項目以下の児童のパーセント

地区	年令	男女合計		男子		女子	
		%		%		%	
六才児	大塚	59		73		45	
	中野	59		44		35	
	郡部	19		44		5	

③、地域別では、大都市ほど項目数が少ない。なお、研究対象となった児童の中四、五才児の数が郡部では非常に少ない。それで六才児のみについて、一枚に三項目以下の者のパーセントを出してみると第7表のようになる。すなわち郡部では一枚あたり三項目以下の児童は19%にすぎないのに、大都市では59%もいる。一枚あたりの項目数が多いか少ないかということに對していろいろの解釈が出来る。その一つは、一枚あたりの項目数が多いという事は、一時に(同時に)多くの対象に関心をもっていること

(同時に多くの対象に目を向けること)を示している、という解釈である。一枚あたりの項目数の少ないということは、狭い範囲にだけ目が向けられていることを示すものと考えられる。(1)、年令が進むにつれて同時に多くの対象に目を向けることが出来るようになるのは当然のことであろう。(2)、男児は女児に比べて、一つのことが済むと直ぐに全く別のことへと、次々と目が移ってゆき易い。一つことに注意を向けると、他のことは見向きもしない。それに飽きると、また別の一つのことを熱中し他のことを忘れるという傾向がある。したがって、じっくりと周囲の事物を見渡すということが、女児に比べて少ないのではないかと考えられる。このような事情から、男児は女児に比べて同時に多くの対象に関心をもちということが少ないのではなからうか。(3)、大都市の生活環境には、田舎のそれに比べて、刺激の強いもの、動きの速いものが多く、生活場面の移り変りが頻繁でかつ速い。このことも、じっくりと周囲の事物を見渡すことを少なくさせ、同時に多くの対象に関心を向けることをさまたげているのではないかと考えられる。また、性差のところでも述べたように都会では田舎に比べて、おとなから「人為的」に手が増えられて、児童の関心が型どられる傾向が強い。これは、児童の生活環境の中の特定の事物だけが抜き出されて注目されるという結果をもたらす易い。田舎では、児童自身が「自然」に興味を見出してゆく傾向が強いが、このことは児童をして環境の中の互に結びついている事物全体に目を向けさせるといふ結果をもたらす易いと考えられる。